2024 年度 事業報告書
（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）

特定非営利活動法人 JAM ネットワーク

１．

【総括】

本年度は、2024 年 4 月 1 日の代表交代を機に新体制でスタートし、メンバー全員が主体的に活動に参画し、プロボノ支援や助成金を効果的に活用することによって組織力強化と事業拡大に取り組んだ 1 年であった。年度末には事務所を横浜市内のコワーキングスペースに移転し 2025 年度の団体運営のスリム化を図った。活動様々な取り組みを通して、団体の支援者や個人プロボノ等の仲間を得たことは団体にとって大きな活力とり、新代表のもと、「ことばの力で幸せを感じる社会へ」というビジョンの実現に向けて着実に歩みを進めることができた。

一方、2024 年度の計画に対してリソースの不足から見送りとした計画もあり 2025 年度以降に継続して取り組みを行っていく。

主な成果

組織基盤の強化では、

1　研修受講、プロボノ支援、事業運営基盤強化を目的とした助成・伴走支援を積極的に受け、団体の運営体制、戦略企画実行、個人のスキルを向上することで組織運営の質向上につながった。

2　パブリックリソース財団が運営する寄付サイト Give One（ギブワン）に採択され、2024 年 9 月よりクレジットカードでの受付が可能となった。2024 年度は 113,900 円を受領した。

3　助成金申請に力を入れた結果、2025 年度に事業を行う東急子ども応援プログラムの助成活動、ロート子どもの夢基金第 2 回助成先として採択された。

認知度向上では、

1　2023 年度 地球倫理推進賞 国内活動部門および文部科学大臣賞受賞が後押しとなり、講話やメディア露出機会を複数得ることができた。また、NPO や企業とのネットワーキングの機会に積極的に参加し、団体認知向上につながった。団体およびことばキャンプの効果について認知が向上することで今後研修講師などに声掛けをいただくことが期待できる。

2　PR Times を活用したプレスリリースを計 6 回発行し、メディア露出を大幅に増加させた。特に児童養護施設のコミュニケーション課題に関する調査結果の発表は団体の認知のみならず社会課題の周知につながった。

3　ネットワーキング活動を強化し、対面・オンラインイベントを行うことで団体の活動周知を行うと

ともに、これまでのご縁の再構築および新たな支援者の獲得につながった。2025 年度の関西圏での活動拡大を見据え大阪でイベントを実施し、「社会人向けの思いをことばにするワークショップ体験会」を行った。

事業実績では、

1　浅井スクスク基金の助成による「ひとり親子プログラム」を実施。プログラムの情報を対象者に周知・参加しやすい環境設定の課題に直面したが、子ども食堂等との外部連携により実施を完了。日頃から多様な支援団体やキーパーソンとの関係構築の重要性を痛感した。ちひろ美術館・東京の協力を得て参加家族交流会を実施。美術館訪問機会と展示の中から好きな絵を選んで理由を言語化するという付加価値を提供することができた。

2　従来の児童養護施設での研修に加えて、過去にことばキャンプを受講した児童養護施設・母子支援施設からの研修依頼が 2 件あった。毎年の研修実施は難しくても数年に 1 度は研修を行うことでことばキャンプメソッドのマインドを施設内で共有することの重要性について伺うことができた。

3　昨年に続き認定 NPO 法人キッズドアの依頼で「（困窮家庭の）女子高校生のためのキャリア教育プログラム」の導入プログラムとして、100 人の高校生向け「ことばキャンプ」を担当した。対人関係の土台となるコミュニケーション力向上は全ての支援活動、プログラム実施の質向上に重要であることから、ことばキャンプ単体のみならず、他団体のプログラムでの 1 セッション担当や支援者への研修などを通じての貢献の可能性を再確認した。

4　Give One の寄付金により 2025 年 4 月に入職する職員へのオンライン内定者研修を無料で実施することができた。本年度は入職前研修に加え、入職後 1 か月が経過した 2025 年 5 月にフォローアップ研修を実施し入職後の困難などを言語化・共有する機会をもつことで孤立によるバーンアウト防止を目指した。

5　企業向けファミリースマイルプログラムは営業活動にリソースを向けることができず、実施に至らず今後の営業活動方法に再考が必要である。

２．事業内容

Ⅰ 子ども等のコミュニケーション能力育成に関する事業

事業名	実施内容	地域	場所	受益者数
●助成事業				
ひとり親子ことばキャンプ事業	浅井スクスク基金 (ひとり親子対象) 親子で参加「ことばの力を育てる"ことばキャンプ"」	関東	横浜、茅ケ崎、新宿、浦安、幕張、ちひろ美術館	25 名
参加者の感想 ・普段忙しくて子どもと話す時間が取れない中で、子どもとじっくり向き合えた。 ・子どもの深い考えを聞いて、帰宅後にじっくり話を聞こうと思った。 ・「聞く耳モード」で話を聞く大切さを再認識した。 講師所感 子どもたちが「花マルメッセージ」を母親に伝える際に恥ずかしがる様子が見られた。また、ワークの中で日ごろ伝えられないことを言葉にして伝え合っていた様子がうかがえ、感情が湧き出る場面もあり、言葉にする大切さを感じてもらえた。参加者のお母さんは「花マル」ポイント（良いところ）を見つけるのが上手で、多くの方が子育てについて学びを積まれていることがうかがえた。				
●依頼事業				
職員研修＋ことばキャンプ事業	【児童養護施設】ゆりかご園で実施 1　新任職員研修 6/25、7/5、11 2　ことばキャンプ 8/19、23，29 3　報告会 12/8	神奈川県	施設内	20 名
職員研修＋ことばキャンプ事業	【児童養護施設】千葉みらい響の杜学園で実施 1　職員研修 6/26、7/3 2　ことばキャンプ 8/5, 8/15, 8/19 3　ふりかえり職員研修 11/27	千葉県	施設内	25 名

職員研修＋ことばキャンプ、親講座事業	【母子生活支援施設】社会福祉法人六踏園 皐月で実施 1　職員研修　7/11、11/2 2　ことばキャンプ　7/23、25、8/8、16、23、26 3　親講座　8/8、26	東京都	施設内	12 名
高校生向けことばキャンプ事業	認定 NPO 法人キッズドア （困窮家庭の）女子高校生のためのキャリア教育プログラム STEP FOR TOMORROW 2024 主催：J.P. Morgan コミュニケーショントレーニング「ことばキャンプ」実施 9/25	東京都	ベルサール東京日本橋	100 名

参加者アンケート結果(要約)

1　特に印象に残ったこと

・　ポジティブ変換：短所を長所に言い換える手法が最も印象的だった（回答者の約 80%が言及）

・　聞く耳モード「あいうえお」：相手への傾聴姿勢の重要性を体感的に学習

・　自尊他尊のバランス：自分と相手の両方を尊重することの大切さを理解

2　気づき

・　自分の短所が他者から見ると長所になることへの驚きと自分では認識できない長所を他者が発見してくれることの価値

・　コミュニケーションにおける聞き手の役割の重要性(対話の本質)を再認識

・　スマホ使用時の「ながら聞き」が相手に与える影響を実感

講師所感

聞く耳モードのワーク（スマートフォンを使用）に違和感を感じない生徒も複数いた。コミュニケーションの取り方が変わってきているように感じた。ワークと振り返りを通じての学びに対する感受性が高く、短時間でより深く自分に向き合える生徒が多かった。特に他者からのポジティブ変換を受けた際の表情の変化は印象的だった。一方で、自分の長所を挙げることに苦戦する生徒も見受けられ、普段から自己評価が厳しい傾向がうかがえた。

依頼元であるキッズドアさんからも「全体的に活発な雰囲気の回となり、「今日はすごく楽しかった！」と声をかけた生徒が何名もいた。」と好評をいただいた。

●自主事業

児童養護施設職員内定者研修	2025 年度内定者向けオンライン研修（社会人基礎、コミュニケーション、レジリエンス等）3/17&18、3/25& 27 *2025 年 5 月にフォローアップ研修を実施 子山ホーム(千葉)、双葉学園(福岡)、ほうゆう・キッズホーム、(千葉)、びっき(千葉)	全国	オンライン	10 名

3 月研修の成果

参加者全員が講座を高く評価（満足度 5 点中 4-5 点）。特に「自己紹介スキル」「レジリエンス」「聞く耳モードワーク」が学びとして選ばれた。一例として最初は苦手意識のあった自己紹介も、質問を意識しながら聞くことで変化があり、自信を持てるようになった。目標設定では「信頼関係構築」「積極的なコミュニケーション」「失敗を恐れない行動」が共通テーマとなった。また、他施設の職員との交流機会の拡充に対する希望もあった。

5 月振り返り

初期の緊張・不安から徐々に自主的行動へ移行し、現場への適応が進んでいる。一方で児童心理の基礎知識不足、効率的な家事運営、子どもの感情理解など具体的な課題が明確化し、想像と現実のギャップを感じながらも、仕事への前向きな姿勢を維持していることがうかがえた。

講師の所感

参加者は学卒者が中心で質問への応答は適切だが、自発的な話題作りや双方向コミュニケーションに伸び代を感じた。社会人経験豊富な参加者の存在は、他の内定者にとって良きロールモデルとなり、グループ全体の学習効果を大幅に向上させた。ロールプレイによる体験学習と目標設定において「信頼関係構築」といった抽象的な目標を「元気な挨拶」など実践可能な具体的な行動まで落とし込むことで実行精度が上がった。新しい職場での適切な人間関係は、誰かに与えられるものではなく、自分自身が積極的に築いていくものであるという気づきを得られ、具体的な実践目標を立てられたことは、この研修の大きな成果であったと感じた。

Ⅱ コミュニケーション能力育成に関する情報発信事業

一般家庭の保護者と児童養護施設の職員を対象としたコミュニケーションの課題関する意識調査結果を発表『児童養護施設の子どもが抱えるコミュニケーション力の課題が明らかに ～退所後の自立への影響を懸念～』を PR Times にて 2024 年 9 月 20 日にプレスリリースを発表した。

Ⅲ コミュニケーション能力育成に関する指導者育成事業

なし

＊2021 年に分社化した株式会社 Verba(一般親子向けことばキャンプ事業を展開)所属のインストラクターに向け、JAM ネットワーク事業の説明を行い、活動への参加を呼び掛けたことでプログラム見学につながった。事業の安定運営に向けて Verba インストラクターの JAM ネットワーク事業への加入促進を引き続き行う。

Ⅳ コミュニケーション能力育成に関するリサーチ事業

一般家庭の保護者と児童養護施設の職員を対象としたコミュニケーションの課題関する意識調査を実施・分析を行い、児童養護施設の子どもたちが抱える課題（伝える力、聞く力、理解する力の課題が年齢に関係なく高い傾向）が明らかになった。

一般家庭の子どものコミュニケーション力に関する実態調査 調査対象：3 歳から 18 歳までの子供を育てる保護者 有効回答：115 名 調査主体：特定非営利活動法人 JAM ネットワーク 調査期間：2024 年 5 月 30 日～6 月 14 日（Web 調査）	児童養護施設の子どものコミュニケーション力に関する実態調査 調査対象：全国の児童養護施設の職員 有効回答：216 名 調査主体：特定非営利活動法人 JAM ネットワーク 調査期間：2024 年 6 月 4 日～6 月 17 日（Web 調査）

※なお、本調査の実施にあたっては、笑顔咲く未来創造隊(グロービス経営大学院公認クラブ「グロービス・ソーシャルアクションクラブ」プロボノチーム) によるご協力をいただきました。

3. 管理部門

組織基盤の強化

- 一般社団法人日本支部による「NPO のためのプロジェクトマネジメント研修」(2024 年 6 月-8 月)
- **プロボノ受け入れ：**
    - グロービス経営大学院公認クラブ「グロービス・ソーシャルアクションクラブ（2024 年 4 月-6 月）
    - 特定非営利活動法人二枚目の名刺（2024 年 8 月-10 月）

- TIS×日本 NPO センター・TechSoup 協働事業によるデジタル基盤強化（2024 年 8 月-2025 年 5 月）
- SOCIALSHIP2024(1-2 次助成)における団体の魅力言語化・ファンドレイズ計画策定支援（2024 年 10 月-2025 年 2 月）

認知度向上に関する活動

- **イベント開催**
  - 地球倫理推進賞受賞・代表交代記念ネットワーキングイベント（2024 年 6 月 15 日/馬車道事務所）
  - ネットワーキングイベント（2024 年 11 月 29 日/東京神田、12 月 14 日/馬車道事務所）
  - 2025 年度の関西圏での活動拡大を見越しキャリア教育を行う NPO 法人 xTReeE（クロスツリー）と大阪でコラボレーションイベントを実施し、「社会人向けの思いをことばにするワークショップ体験会」を行った。（2025 年 3 月 20 日/大阪梅田）
- **Facebook 等 SNS**：団体アカウントを作成し継続的な情報発信
- **プレスリリース発行：**
  - 児童養護施設の子どもが抱えるコミュニケーション力の課題が明らかに ～退所後の自立への影響を懸念～（2024 年 9 月 20 日）
  - 【初開催！11/29・12/14】親からの虐待等が理由により児童養護施設で暮らす子どもの生き抜く力を育むかかわり方とは？（2024 年 11 月 19 日）
  - SOCIALSHIP2024 二次助成に採択されました（2025 年 1 月 29 日）
  - パラレルキャリアで児童養護施設の子どもたちの自立支援を強化（2025 年 2 月 2 日）
  - 児童養護施設内定者向けオンライン研修を無料で提供（2025 年 2 月 10 日）
  - 児童養護施設の子どもの自立につながる「ことば」の力を育む「ことばキャンプ®」が東急子ども応援プログラムに採択（2025 年 3 月 1 日）
- **各種講演・プレゼンテーション**：企業、大学等で活動紹介（倫理法人会、PERSOL グループ、多摩大学など）
- **メディア露出**：新聞、WEB、ラジオ等での活動紹介（新世、倫理新報、オンラインマガジン、ラジオ等）

事務所移転

事務所を横浜市内のコワーキングスペースへ 3 月末日をもって移転。これにより 2024 年度(年間 60 万円)と比較し、2025 年度は年間 21 万円と 40 万円のコスト削減となる。

横浜アントレサロン（コワーキングスペース）

〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸 1 丁目 11 番 1 号 水信ミズノブビル 7 階

運営体制：

- 代表理事：村上好
- 理事：高取しづか、獅子倉雅子、入江京子、大和都、幾島博子、大野和世
- 監事：渡瀬有子

主要担当：

- 事業企画・管理：村上、大野、獅子倉、伊藤
- 広報・営業：村上、伊藤
- 会計：獅子倉
- ファンドレイジング：石田
- 税理士：本郷先生